
早期臨床実習を終えて

早期臨床実習を終えて

歯学科2年 須佐友美

今回、二学年に上がったの早期体験実習に、一つは、「白岩の里」もう一つは、「太陽の村」という知的障害者総合養護施設を二施設見学させていただきました。今まで、そういった施設に見学させていただくことはなく、今回が初めての体験でした。予想がつかず緊張した気持ちで行ったのを覚えています。しかし、実際に施設の方のお話を伺ったり、知的障害者の方と触れ合ったりしているうちに感じたことは、地域との連携や地域に根付いた個性ある催し物が豊富で、知的障害者の方への配慮や環境づくりが素晴らしいということです。例えば、仕事をする仕事部屋に仕切りを作って、集中できるように配慮したり、言葉で伝えるのではなく、ジェスチャーや絵などを工夫して使って上手くコミュニケーションしたりすることで自分の気持ちを相手に伝える相互のコミュニケーションを図っていることなどです。これを知り、言葉で伝えるだけでなく、様々なコミュニケーションの方法があるのだと思いました。また、入所している方を「住人さん」と呼んだりしているところなども遊び心があっていいなと感じました。そして入居している方だけでなく、職員の方々ひとりひとりの個性を理解して楽しくやっという気持ちが見えました。それでいて、自立を支援する環境も整っているのだと感じるような、様々な取り組みがされていました。今まで思っていたよりもはるかに施設の雰囲気明るく、そこにいる人達が楽しそうに生活しているのが印象的でした。実際に知的障害者の方と触れ合う時間をいただいたのですが、実際に触れ合ってみると、ただ見ている以上に予想外なことが多く起こり、そのつど相手に合わせて臨機応変に対応していかなければいけないと感じました。それでも、今回

は向こうの方から心を開いてもらった感じで、一緒に空間にいて、お話したり、一緒になって遊んでみてとても楽しかったです。相手がどのように感じているのか汲み取ったり、信頼関係を築くためにはやはり、自分から心を開いていかなければならないと感じました。そうでないと、患者様自身も心を開いてくれないと学びました。歯科診療をするにあたって、これは重要なことだと思います。実際に、歯科診療を嫌がり歯科医側にとっては診療のしづらい人もいれば、素直に診療を受けに来てくれて、スムーズに診療を進めることが出来る人もいて、そういった様々な人を相手に診療しなければならない大変さがあることを気づかされました。今後、歯学部で勉強していく過程で、歯科医療の知識だけでなく、人間的な思いやりや、人との向き合い方も一緒にその都度学んでいきたいと思いました。今回はこのような貴重な経験をさせていただいてとても身になった上、自分自身また将来のことについて考えるよいきっかけになったと思いました。今後この体験をなにかしらに生かしていきたいと思っています。

早期臨床実習を振り返って

歯学科2年 鈴木兼一郎

これから、僕が知的障害者の方が生活している施設を見学したときのことについて書きたいと思います。去年、早期体験実習で二一にいがた白岩の里と太陽の村に見学に行きました。今までこのような体験はしたことがなかったので、とてもよい体験になったと思っています。どちらの施設でも知的障害者の方の社会復帰を援助するという目的で、住人の方の生活の補助を行っていました。施設ではそこで生活している方々を「住人」と呼んでいました。これからその施設に行つて、自分が感じたことを書きたいと思います。

まず、コクニ新瀉白岩の里に見学に行った時のことについて書きます。ここでは施設内に地下道があり、住人の方が雨の日でもそこを通れるようになっていました。そして、各部屋では住人の方がそれぞれの仕事をっていました。仕事には、高度な技術を要するものもあれば、簡単な作業もありました。これは太陽の村でも同じようなことが行われていました。この仕事は住人の方々を社会復帰させるのにとっても大切なこととなります。また、白岩の里は施設の規模が大きく、かなり多くの人たちが生活していました。そのため、患っている障害には軽度のものから重度の症状があり、それぞれの症状に合わせて住人の方の部屋が分けられていました。

太陽の村では、主に自閉症を患っている住人の方々が生活していました。自閉症にはさまざまな症状があり、天才と言われている人たちの中にも自閉症を患っている人がいると言われていました。自分は自閉症に対する知識がほとんどない状態で見学に行きましたが、施設では自閉症の方々と実際に触れ合い良い体験ができました。自閉症ということをお忘れさせるくらい住人の方と楽しく会話することができました。この施設で印象に残ったことは、住人の方がそれぞれの仕事をする場所に工夫がされていたことです。それぞれの住人の方に合わせて仕事があるだけでなく、作業する場所に小部屋が用意されていたりして作業環境にも工夫が施されていました。どちらの施設も玄関や各部屋への入り口、施設外と施設内をつなぐ通路には扉が備え付けてありました。住人の方々が勝手に施設外に出てしまわないように鍵が必ず付いており、施設外への扉は常に鍵がかけてありました。住人の方が勝手に出て行ってしまうことがあるので、このような設備はとても重要だそうです。

施設では、そこで生活している方たちを「住人」と呼んでいましたが、それは障害者と自分たち施設外で生活している人との心の区別を無くす工夫なのだと感じました。住人の方々も私達と同じ人間であり、区別する理由はないと改めて思いました。自分も、今まで障害者の方々に対して障害をもっていない人たちと同じように接してきた

か、と聞かれるとはつきりと「はい」と答えることはできなかったと思います。今考えると、これは大変恥ずかしいことであると思います。これからは一人の人間として、障害がある、ないに関わらず、全ての人に平等に接していきたいです。そして、障害者に対する差別がない社会ができればいいと思います。

早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 山口美髪

私たち口腔生命福祉学科2年生は前期に、早期臨床実習の授業の一貫で学外の様々な施設に見学に行きます。見学施設は、保健所・児童相談所・医療センターや特別養護老人ホーム、さらに知的障害者施設です。私はこれらの施設に見学に行くまで、漠然としたイメージと事前に調べた資料の知識しかありませんでした。しかし見学に行ったことにより、施設の現場の雰囲気を感じられ、私たちが今勉強している歯科の内容とそれらの施設の関連を見つけることができました。見学に行きたいいくつかの施設の中から、はじめに保健所について書きたいと思います。

新潟市保健所では、1歳6ヶ月健診の様子を見学させていただきました。健診場所ではたくさんの幼児とお母さんたちがいて、受付を済ますとゼッケンをもらっていました。そのゼッケンは幼児が緊張をせずリラックス出来るよう、普段の呼び名を書いて背中に貼るためのものです。私たちは見学させて頂いた時、一組の親子に付き添ってもらいました。内容は、問診・身体測定・医師の診察・歯科健診、最後に結果・相談をして終了といった流れです。新潟市は有料でフツ化物塗布も行っており、たくさんの幼児が塗布を受けていました。健診では、幼児のための様々な工夫がされていました。幼児が怖がらぬよう、白衣は医師のみが着用し、衛生士・保健所の方は私服にエプロンをしていました。身体測定の体重を量る際は、大きな籠に幼児をいれて量っていました。会場にはたくさんの絵本・おもちゃも用意しており、幼児たちは楽しそうに過ごしていました。私は、歯

科健診の際のお母さんの関心はう蝕が大部分を占めているのではないかと思っていたのですが、たくさんのお母さんが歯並びのことを気にされていて、とてもびっくりしました。保健所への見学実習は、健診の雰囲気や幼児への対応の仕方、一歳半における歯への注意など、身を持って体験できました。

次に知的障害者施設についてです。私たちは寺泊にある、コロニーにいがた白岩の里に見学に行きました。広大な敷地に6つの棟が建っていて、それらは全て地下通路で繋がっており、雨天時などでも移動に支障がない造りになっていました。この施設は、年齢・目的によって6つに部門が分かれており、私たちは児童部・成人部・社会復帰部を見学させていただきました。児童部・成人部は一人か二人ごとに部屋が用意されていて、障害の程度によって共有スペースが二つに分かれていました。児童が暴れたりした時に危なくないよう、部屋には物がほとんど置いてありませんでした。社会復帰部は地域での生活や社会参加を目指し、労働や家事などの訓練を行っている部門です。部屋をきれいに掃除していたり、洗濯機が設備されていたり、家事全般を習得しているようでした。見学に行つて思ったことは、障害の程度によって手を自由に動かせない方がいらつしゃいます。そういった方たちは、私たちが普通にしている歯磨きがとても大変で難しい行為なのだと思います。歯磨きは手を細かく動かします。少し手の自由が利かないだけで思うように歯磨きをすることが出来ず、口腔ケアが十分でないという問題点が見えました。今後歯科衛生士になったとき、そういった方々のケアを行うことがあるはずで、対応の仕方や、そういった方々でも出来る口腔ケアの仕方を説明していけるよう、これからの勉強も頑張りたいなと思いました。

早期臨床実習を終えて

歯学部口腔生命福祉学科2年 山田愛理

早期臨床実習では、今後福祉に関わっていく上でそのきっかけとして実際の医療や福祉の現場に

触れることができました。

この早期臨床実習をするまでは、医療や福祉といったものには患者や受ける側としてしか関わったことがありませんでした。医療や福祉の現場にはどのような施設があつて、どのようなことが行われているかもよく知らない状態でした。しかし、まだ一部ではありますが、早期臨床実習では新潟市保健所、新潟医療センター、特別養護老人ホームばんだい桜園、児童相談所の4つの施設を見学しました。

新潟市保健所では乳幼児の歯科健診を見学しました。そこでは乳幼児健診を受けに来ているお母さんに付き添わせてもらいながら健診の一部始終を見て回りました。健診中は大人しくしている乳幼児もいれば落ち着きなく動き回つたり、健診が怖くて泣き出してしまつ子もいたり、現場はとても慌ただしい雰囲気でした。お母さんのほうも、一人で不安そうにしている人や乳幼児の兄弟も連れて慣れている感じの人、積極的に質問している人など様々でした。そんな中、健診をしている医師や歯科医、歯科衛生士の方々は手際よく、かつ丁寧に対応していてその場をおどおどしながら見ている私は感心してしまいました。

新潟医療センターでは総合病院の歯科で活躍している方のお話を聞きました。総合病院では身体のほかのところを患っている方や高齢で入院されている方には問診をしにこちらから病室へ行つたり、お薬に配慮したりと気をつけなくてはいけないことが多いのだと知りました。また、痴呆の患者様もいて治療が大変だというお話を聞いたときは、それでも笑顔で対応しているということにすごいと思うばかりでした。

特別養護老人ホームばんだい桜園では利用者の方がどのように過ごしているかお話を聞いたり、施設を見学したりしました。施設内は利用者の方が快適に暮らせるような工夫がたくさんありました。私たちが通ると笑顔で挨拶してくれる利用者の方もいました。しかし、実際は施設の利用を長い間待っている人がいることや、ばんだい桜園のような施設がまだ少ないことなど、現実には問題点が多々あるのだということを知りました。

児童相談所では児童虐待についてのお話を聞き

ました。虐待には精神的なものもあり、そういう場合は発見されにくいということや、虐待を発見した場合の対処の仕方、虐待が起こっている件数など胸が痛くなるお話もあつたりして、児童相談所という施設が重要な役割を果たしているのだと考えさせられました。

これらの施設見学のほかにも、重りや目隠しを身に着けて高齢者の方にとって普段の生活でどれだけの障害があるかを体験し、またそれをどのように手助けするかという介護体験実習を行ったり、救急蘇生法やバイタルサインを測定する方法を学んだり、患者様への言葉づかいや対応の仕方、感染予防の対策についてなど早期臨床実習ではた

くさんの知識を得ることができました。この知識は今後、医療や福祉の現場に立ったときに基本となることだし、気を付けなければならないとても重要なことだと思います。また、施設見学をして初めて実際に医療や福祉の現場を見て感じたことやわかったことは、この先もずっと医療や福祉に関わっていくようになったときにも忘れてはならないと感じました。

これからさらに専門的なことやたくさんのごことを学んでいくと思いますが、今回の早期臨床実習で学んだことを心に留めながら、患者様の気持ちを第一に考えられる医療従事者になりたいと思いました。

